

## 平成30年度 大阪府大阪市南部保健医療協議会

- ・日時：平成30年12月10日（月）14：00～15：50
- ・場所：西成区役所 4階 会議室
- ・委員出席：23名出席（委員総数33名）
- ・傍聴人数：4名、報道関係者数：2名

### ■議題（1）会長・副会長の選出について

会長には、住之江区医師会 松嶋委員、副会長には、住之江区歯科医師会 上田委員、西成区薬剤師会 藤井委員を選出し、承認された。

### ■議題（2）地域医療構想推進にかかる大阪アプローチについて

（資料に基づき、大阪府健康医療部保健医療室保健医療企画課から説明）

意見等特になし

### ■議題（3）大阪市二次医療圏「地域医療構想」の進捗状況・課題と今後の方向性について

（資料に基づき、大阪市健康局健康推進部健康施策課から説明）

#### 【主な質問・意見とその回答】

（事務局）「大阪市立住吉市民病院の廃止に伴う医療機能の再編計画」については、平成30年3月23日付けで厚生労働大臣の同意をいただき、現在、大阪市立弘済院附属病院の大阪市内への移転を検討している。年度内には議会等に諮りつつ、基本構想案を取りまとめ、再編計画を大阪府知事に諮っていく。その際は医療病床懇話会を経て南部保健医療協議会に審議をお願いすることになる。

（会長）住吉市民病院の医療問題・継承問題について質問させていただきたい。

さらに、住之江区医師会員から「お困りの声」を集めたので説明したい。

まずは選定責任の問題である。小児科産科の臨床経験の全くない南港病院を選定したが、最低限必要な契約手続きができておらず、平成29年に突然の辞退となった。的確な指導を怠った大阪市の責任は極めて重大である。

質問1 大阪市はこれに対しどのような責任を取ったのか。南港病院には処罰や違約金を請求したのか。

質問2 住吉市民病院の100病床はなぜ没収されることになったのか。

質問3 南部基本保健医療圏の周産期病床は2/3に激減したが、インフルエンザの流行期にはどのように対応するのか。また、遠方への救急搬送にはならないのか。

質問4 府市共同母子医療センターの重症心身障がい児のショートステイの病床はいつから2床になったのか。

- 質問5 出産件数は増加しているが、今後産科医師の増員予定はあるのか。
- 質問6 住之江診療所の診療時間の変更は可能か。
- 質問7 府市共同母子医療センターへの直通バスの増便や、運行経路についてはどのように考えているのか。
- 質問8 府市共同母子医療センターの立地条件や交通事情については、どのように検証したのか。
- 質問9 平成30年9月開催の民生保健委員会で、6年後の大阪市立大学病院分院の医療内容に小児周産期の入院医療が全く盛り込まれていないとの説明であったが、小児科10床、産科10床を確保するという市長の発言は嘘だったのか。

続いて「お困りの声」について説明する。

1. 住之江区には初産婦を受入れてくれる病院が無く、出産が遠方になり通院が大変で辛い。また、交通事情により予約時間の予定が立たない。
2. 重症心身障がい児のショートステイについて、府市共同母子医療センターでは小児科での受け入れが15歳までと年齢制限があるが、継続して小児科で受け入れてもらえないか。
3. 府市共同母子医療センターでは妊婦健診の設定費用が高いため自己負担金がかかるが、受診券の範囲で済むようにしてほしい。
4. 重度の食物アレルギーの幼児で、住吉市民病院の跡地に入院施設がなくなったため、不安により救急対応できる市外の市民病院近くに転居することとなった。
5. 府市共同母子医療センターで出産予定であったが、朝の交通渋滞により救急車内で出産するという事態（※）が発生した。

（※）救急隊の搬送記録により、住吉市民病院閉院後の平成30年4月以降で住之江区在住の方が大阪市消防局の救急車の中で出産した事実はなかったと確認。

交通事情で搬送途上に病状が急変する危険性が高くなるなど、住吉市民病院閉院後の物理的問題は明らかである。直線2kmの距離に2つの公立病院が存在するのは二重行政の無駄であるということで、住吉市民病院は閉院されたが、医療内容や交通事情の事前検証が不十分だったのではないか。交通事情の問題は、最優先課題として取り組むべきではないのか。

（事務局） 再編計画として民間病院を誘致するも、公募不調となり断念したが、住吉市民病院の跡地には弘済院附属病院を移転し、大阪市立大学病院が運営するという方針に転換した形で、現在検討会議を進めているところである。市の方針としては定まっていないため、詳しいことは申し上げることができない。

（会長） 具体的に大阪市はどのような責任を取ったのか。

（事務局） 再編計画の中で、大阪急性期総合医療センターに機能統合し、跡地には弘済

院附属病院の認知機能に周産期機能を加えた新病院を誘致するという事で、検討を進めている。

**(会長)** 6年後まで待てないが、どのように対応していくのか？

**(事務局)** 住之江診療所を開設し、さらに検査や治療が必要な場合には、大阪急性期総合医療センターや大阪市立大学附属病院、大阪市立総合医療センターと連携している。また、先ほどの妊婦の件ですが、かかりつけである大阪急性期総合医療センターに搬送されたと思われるが、大阪市立大学附属病院や救急病院への搬送もあり、南部基本保健医療圏としてはある程度の医療機関が点在しているという認識である。

**(会長)** 交通事情を検証していたら府市共同母子医療センターとの統合は避けられたのではないか。6年後ではなく、すぐに改善策をとるべきではないか。

**(事務局)**

回答1 南港病院とは契約行為には至っていなかったため、賠償請求はしていない。

回答2 新病院開設までには一定期間かかるため 100 床については断念せざるを得ない状況となったが、大阪市二次医療圏としては病床の過剰地域であるため、病床数は足りている。

回答3 インフルエンザに限らず感染症については、大阪市立総合医療センターで対応可能である。パンデミックが生じた際には、市内の病院の協力も必要かと考えている。

回答6 住吉市民病院も外来診療は午前診だけであり、午後は専門診療として対応していたため、従前と変わらない状況である。

回答9 新病院の整備については、検討会議で検討中であるため、今後どのようにしていくかは市長とも相談しながら進めていく。

**(会長)** 先日の民生保健委員会では、小児周産期の入院病床はないと回答されたが。

**(事務局)** 大阪市立大学病院と共に検討しながら、100 床のうち小児科・産科 10 床、10 床という方向性をもって進めていきたいと市長も平成30年1月から3月にかけての住民説明で申し上げてきた。

大阪市としては基本構想案を議会に示し、議論をいただくことと考えている。

**(意見)** 病院を再編統合する際に、交通事情は検討したのか。また、時間帯の検証はしたのか。

**(事務局)**

回答8 バスのルートは確認しているが、具体的な時間帯の検証までしたものを見たことはない。

**(意見)** 実態調査は必要だと思うので、是非やっていただきたい。

**(事務局)** 救急搬送のデータについては、消防局やその他関係局とも調整し進めていきたい。

(意見) 搬送に時間がかかった例などについても調べてほしい。小児病床については大阪市二次医療圏全体としてではなく、南部基本保健医療圏の中で対応していく必要がある。また、非常に多くの福祉的機能を担っていた住吉市民病院は、大阪市より過去3年間の実績が報告されたが、現状について大阪市は把握しているのか。

(事務局) 重症心身障がい児のショートステイは、追跡調査をしており動向は把握している。特定妊婦は、南部基本保健医療圏で対応できていると認識している。

(意見) 府市共同母子医療センターでどの程度フォローできているかは調査すれば把握できる。病院では福祉的な対応はできないため、行政としてしっかり対応してほしい。我々も相談に乗るので年度内に調査を開始していただきたい。

(事務局) 可能な限り数字を集めていきたいと。

(意見) 年度内に必ず調査を実施し、報告会をしていただきたい。

(会長) 報告会も設定をしていただきたい。

これから決議をとる。

・橋下徹前市長の付帯決議を遵守する事。住吉市民病院存続署名7万筆以上の民意が込められており、今後も付帯決議を遵守する事。

・可及的すみやかに住吉市民病院跡地に小児科10床、産科10床の入院病床を実現する事。

賛成の方、挙手願います。

(出席委員23名中、途中退席6名を除く17名の委員のうち、11名が挙手)

賛成多数のため議決する。大阪府医療審議会にあげていただきたいと思う。

閉 会